

**第6期 (2008年度) S S C S (Small Schools for Civil Society)  
インターンシップ奨励プログラム  
活動カリキュラム (2008年6月～2009年6月)**

**■ 団 体 概 要**

記入日2008年4月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 さなぎ達
代表者・連絡担当者	代表者 山中 修                      連絡担当者 櫻井 武磨
団体住所等	〒231-0025 神奈川県横浜市中区松影町3-10-3 第一浜松ビル1階 電話：045-228-1055                      FAX：045-228-1055 E-mail：sanagitachi@nifty.com      URL：http://www.sanagitachi.com/wiki/ 連絡のつく曜日・時間帯：月～金 9時～17時
設立時期	2001年11月

**団体の活動目的と活動内容**

寿地区・周辺地域のホームレス及びホームレスに至るおそれのある人々が、自ら自立に向かいやすい環境を整えることを主な目的とし、医・衣・職・食・住の各方面で活動しています。

**☆「さなぎの家」の運営**

さなぎの家は365日オープンし、誰でも自由に語れる憩いの場です。またアウトリーチとしてのパトロールを実施し、そこから路上生活者を癒しの場であるさなぎの家に来て頂き、相談受付を行っています(寿町なんでもSOS班事業) またさなぎの家に来て頂いた方と一緒に、まちの美化とコミュニケーションの場として緑化活動を行ったり、さなぎの家に来て頂いた方を対象にホームヘルパー2級取得のための就労支援事業も行っていきます。

**☆「さなぎの食堂」の運営**

路上生活者や寿町に住んでいる人たち(特に高齢者や介護を受ける方)に、低価格で3食の温かい食事の提供を目的として食堂運営を行っています。また食堂の作業場はジョブトレーニングの場を設けています。それと共に、食材コストを下げるため横浜市とローソンの協働により「横浜方もったいない運動」を行っています。

**☆地域医療モデルの創造**

地域医療モデルの創造の中に一環として、孤独死防止のための見守りネットワーク事業を行っています。

**☆広報啓発活動**

さなぎ通信やインターネットを通して広報活動を行っています。

**■活 動 カ リ キ ュ ラ ム**

活動名	……ホームレスの人々の“自立自援”のための環境整備
主な活動場所	…… さなぎの家
最寄駅と駅からの距離	最寄駅：JR石川町駅から徒歩5分
スケジュール 2008年6月8、9日	<活 動 な ど> (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります) <b>事前研修会・入校式(6期)</b> <b>インターン開始</b>
<<前期>>	・ 寿町、さなぎ達全体の把握、理解 ・ さなぎの家での交流 ・ (さなぎの家での交流後)具体的な現場体験を面談により選択して頂きます(2回目の面談時) 【さなぎの家、さなぎの食堂、関係諸機関(医療、介護、まちづくり等)】 ・ さなぎ達に関わる他の学生との交流会(夏休み中実施予定) * イベント補助(前期後半～後期)
2008年11月頃	<b>中間報告会</b>
<<後期>>	・ それぞれの場所での活動【さなぎの家、さなぎの食堂、関係諸機関(医療、介護、まちづくり等)】 →2か月に一回体験の振り返りを行い、面談で他の場所への希望を聞きます。一箇所を継続していても構いませんし、他の場所で活動を希望しても構いません。

2008年6月 \* イベント補助(前期後半～後期)  
修了報告会(6期)／入校式(7期)

総括的な受け入れ指導者名(スーパーバイザー) : 櫻井 武彦

日常的な受け入れ担当者名(メンター) : 田中 陽介、川崎 泉子、兼重 真純

### ■ インターンに期待すること

好奇心旺盛な人、自由な目線を持っている人、積極的に何かをやり遂げてみたい人をお待ちしています。

### ■ 活動日・活動時間についての希望

基本的には9時～17時(日程は随時調整)

### ■ 団体の活動を理解するために役立つと思われる資料や情報

さなぎ達ホームページ、パンフレット  
Yokohama Hostel Villageホームページ <http://yokohama.hostelvillage.com/ja/>  
横浜市民生活白書2006  
月刊ガバナンス2007年2月号  
横浜市「協働の玉手箱」など

### ■ その他

専門知識は必要ありません。広く利用者を理解、把握し、ひとりひとりの身になって考えられる、意欲的・積極的な方を希望します。ご本人の希望を実現させることを中心に、一緒に考え進めていっていただきたいと思います。

### ■ 先輩からのメッセージ

さなぎ達での9ヵ月は考え悩むことも多くありましたが、それ以上の出会いと、知識では無い多くの学び、そして自分自身を変える大きなキッカケを得ることが出来ました。

目で見て、心で感じ、考え沢山悩んでください。一生忘れられない1年になるはずですよ。

第5期インターン 川崎 泉子 (早稲田大学芸術学校3年・参加当時)

### ■ 先輩からのメッセージ

このインターンシッププログラムは、“つながる”キッカケをくれます。色々な人とつながること、自分自身の経験・未来へつながること・・・自分次第で、そのつながりもそこから得ることも無限大に広がられます。私のインターン先である“さなぎ達”では、非日常的で異常な日々が繰り返されています。でも、それと同時に、日常的で普通な日々が過ぎているのです。さまざまな人々が、時には力を合わせた、ぶつかり合いながら、自分なりに生きている姿を目にすることができます。市民社会において、この“つながる”ことがどれほど重要かを考えられる場所の1つだと思います。それでは、レッツ“つながる”！！

第5期インターン 高野 佳子 (中央大学大学院修士1年・参加当時)